

## 【シンガポール - 医療】

## 健康・未病産業に商機あり、シンポで講師ら

「健康・未病と食」をテーマに、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、インド、中国のビジネスチャンスを探ることを主眼に置いた日本人対象のシンポジウムが 4 日、シンガポールのバイオメディカル (生体医療工学) 研究開発 (R & D) 拠点であるバイオポリスで開かれた。講師らは医療、食の分野から、アジアの健康・未病産業に日本企業が参入していく道を熱く説いた。



パネルディスカッションで発言する AMC の尾崎美和子代表 (中央)。「チームで入っていくことが日本として海外で勝つ道」と主張した = 4 日、バイオポリス (NNA 撮影)

このシンポジウム「健康・未病産業のグローバル化」は、日本の食や文化、製品、コンテンツなどの海外プロモーション事業ほかを手掛ける LA DITTA (ラ・ディッタ、東京都港区) バイオポリス内にあるアジアメディカルセンター (AMC) 監査法人トーマツが主催。日系企業関係者など約 70 人が出席した。

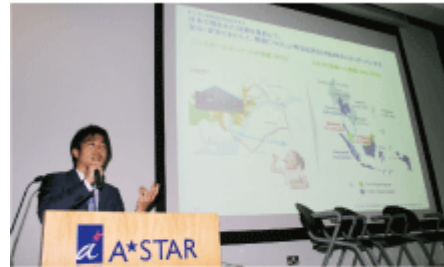
日本貿易振興機構 (ジェトロ) シンガポール事務所の長谷部雅也所長による開会あいさつの後、講師のトップバッターとして登壇した AMC の尾崎美和子代表は、高齢化進展と医療費増大への対処が迫られている中、シンガポール政府は医療費負担を抑える一方、医療産業の競争力を確保することで、国として赤字にならないよう最大の努力をしていると説明。他方、日系企業のビジネスチャンスの一例として、日本にあってシンガポールにほとんどないイベント用の医療・介護食や介護職宅配サービス、プロ向けや家庭向け、あるいは外国人向けの介護食料理教室などは「是非、参入してほしい分野」と訴えた。

続いて登壇した、医師で日本アシストシンガポールの佐藤健一メディカルプロジェクトディレクターは、シンガポールでは日本のような厳格かつ詳細な食品の成分・アレルギーの表示は行われていないことを紹介する一方、日本企業は食品輸出に当たって、義務付けられなくても日本国内向けの製品同様に詳細な表示を行うよう提唱した。

シンガポールでも食品の栄養表示制度そのものはあり、農産物管理庁 (AVA) がガイドラインを出している。ただ日本の制度に比べると例示されている表示項目は簡素で、市販されている加工食品などの包装を見ると、表示の詳細度にはばらつきが見られる。さらに一部の輸入加工食品などは、原産国の言語でのみ栄養や成分が表示され、英語による表示がないまま売られているのが現状だ。

日成共益シンガポールの郷津陽祐セールスマネジャーは、誤飲を防ぐトロミ剤をはじめとする自社製品を紹

介した。



日本の技術を使った植物工場をシンガポールに設ける意義を訴えるトーマツの早川周作シニアマネジャー = 4 日、バイオポリス (NNA 撮影)

トーマツの早川周作シニアマネジャーは、シンガポールで日系植物工場の進出促進に精力的に取り組んでいる。講演では、日本で発展を遂げている植物工場が、世界の食糧需要増大対策の有力な「解」と期待されている

従来型農業と比べて環境への悪影響が著しく少なく持続可能性に優れている。生産する野菜の品質の均一性や販売段階での鮮度も高いといった優位性を持つと説明。野菜自給率が 7% のシンガポールでは大きな成長性と将来性があることを強調した。

講演後のパネルディスカッションでは、これら 4 人の講師が参加者の質問に答えるなどした。

## 「日本は強み生かせ」

シンポジウム終了後、各講師らは個別に NNA の取材に応じた。

欧米系有力企業が押さえるシンガポールの医療機器市場は、もはや日系企業の参入は困難とみる AMC の尾崎氏は、「優れた独自技術を持っていれば日系企業の製品にも可能性があるのでは」との問いに対し、否定的な見方を表明。「その技術が何かにもよるが、1 つだけ突出していてもダメ。(医療機器は) 全体のトータルパフォーマンスがニーズに合っているか、医療現場のエンドユーザーにとって使い勝手が良くなっているかといった点が重要だからだ」と指摘した。

日本アシストシンガポールの佐藤氏は、厳格かつ詳細な食品成分表示制度を「日本がノウハウを輸出できる分野」とみる。同氏は「食品をただ輸出するだけでなく、このようなスタンダード (標準) をつくって輸出していくことは、戦略的に非常に重要」と話した。

トーマツの早川氏は、パネルディスカッションでの植物工場投資に関連し、特に日本の大手企業にみられるリスク回避の傾向を指摘していた。NNA の取材に対しても「『やるリスク』と『やらないリスク』をてんびんにかけることができない」とコメントした。

他方、「植物工場を普及させるに当たって、日系企業が規格や認証制度づくりをリードしていくこと、また技術の知的財産権を守るため、進出国で率先して特許を取得していくことはともに重要ではないか」との問いに対しては「全くその通り」と回答。日本発のグローバルスタンダード (世界標準) をどう作っていくかは非常に大事なことで、植物工場はそれができる分野との認識を示した。特許取得も間違いなく重要になるとの見方だ。